



# 地本NEWS

2014年  
1月24日  
自治労北海道  
網走地方本部  
2014第1号

自治労産別統一闘争を意識した  
取り組みを強化しよう！  
春闘要求から  
年間闘争サイクルを確立しよう！

網走地方本部では1月18日から19日にかけて、紋別市立オホーツク青年の家で「14春闘討論集会・第1回単組総支部代表者会議」を開催し、管内各地から17単組総支部57名の参加により2日間にわたる討論が行われました。

集会では、道本部や地方本部執行部から、13秋期闘争（賃金確定闘争・現業公企統一闘争）の総括や14春闘方針の提案が行われ、参加者からは全体で7本の発言がありました。

発言では、全道庁1月闘争の支援要請、単組における成果や課題、現業職場の民間移譲に向けた現状と課題、「労使関係ルールに関する基本要書」の取り扱い、青年部の春闘期の取り組み、中間自治体選挙闘争の取り組みが報告され、執行部答弁の後、14春闘方針が可決承認されました。

## 《 2014 春闘 日程と戦術 》

### ①統一要求書の一斉提出 2月24日（月）

- ②回答指定日 3月 5日（水）
- ③組合旗掲揚 2月17日（月）～ 3月末
- ④重点交渉期間 3月 6日（木）～13日（木）
- ⑤腕章着用 3月11日（火）～14日（金）

### ⑥29分時間内くい込み集会 3月14日（金）

- ⑦超勤拒否 3月14日（金）
- ⑧出張拒否 3月14日（金）

#### 《春闘期 全単組オルグ》

**2月12日（水）～13日（木）**

## 網走地本組合員 3,700人×5筆 多くの署名で、 2014 人事院勧告を出させない！

### 《 組合員個人署名活動 》

- ア) 取組期間 ～3月末まで
- イ) 取組対象 全組合員およびその家族
- ウ) 取組目標 組合員数の5倍の署名数
- エ) 署名の集約
- 第1次集約 2月14日（金）**
- 第2次集約 3月20日（木）**

また、当面のたたかいとして「人事院「給与制度の総合的見直し」に反対する取り組み」を全体で取り組むことを確認しました。

具体的な取り組みは、全単組での「人事院総裁に対する要請文書送付行動」、**組合員×5名を目標とした「署名行動」**を全力で取り組むこととしました。

人事院は、13年の人事院報告の中で「給与制度の総合的見直し」について、早急に結論を得ると報告し、地方と高齢層の公務員給与水準の引き下げなどを検討することを明らかにしました。

05年の人事院勧告当時を振り返ってみると、政府は「給与構造改革」により、地方交付税を年間6千億円も減らし、不当な給与費の削減を行いました。当時の地方公務員に対する給与水準の引き下げは、地域経済に深刻な影響を与えました。

今回の「総合的見直し」は05年と同様に、給与水準引き下げに直結するものです。

# 人事院「給与制度の総合的見直し」の 最大の問題は「このふたつ！」

## 地域間の給与配分の見直し

人事院は民間賃金指数の低い12県をひとつのグループとして、官民較差の率の差を算出したところ、「2ポイント台半ばの差があるので、見直しが必要」としている。

【問題点】①民間賃金指数の低い県は、地理的に散在している。②民賃の低い県を1つのグループとして、新たな較差を生み出したのは非常に恣意的ではないのか。③現時点においても、国家公務員の本府省勤務者（東京周辺）と地域手当費支給地（東京周辺以外）との間には、2割を超える水準差があること。④職務給の原則である「同一労働・同一賃金」の原則に矛盾している。⑤国家公務員に関しては「職員間の配分変更」かもしれないが、地方公務員にとっては、結果として「賃金水準そのものの引き下げ」につながる。

**人件費削減の最大のターゲットは  
私たち「地方公務員」じゃないの?!**

## 地本のうごき

- 1月30日(木) 自治労第146回中央委員会(東京都津別町職第51回定期大会)
- 2月1日(土) 地本青年部春闘一泊学習会(温根湯)
- 2月6日(木) 道本部第118回中央委員会(札幌市)
- 2月8日(土) 連合網走地協春闘討論集会(北見市)
- 2月11日(火) 2.11 紀元節復活反対!日の丸・君が代強制反対!網走管内集会(北見市端野)
- 2月12日(水) 道本・地本合同春闘オルグ(~13日)
- 2月15日(土) 道本部自治体財政セミナー(札幌市)
- 2月21日(金) 全国町村職総決起集会(東京都)
- 2月24日(月) 春闘統一要求書一斉提出日

## 世代間の給与配分の見直し

人事院は「50歳台後半層の官民較差は依然として大きい」として、給与カーブの見直しが必要だとしている。

【問題点】①官と民では、人事管理(管理職への昇任など)の違いが大きい。例えば、「給与水準のピーク」を比較すると民間が50代「前半」にピークを迎えるのに対し、官(公務員)は50代「後半」にピークを迎える。②差を埋める必要性そのものに疑問がある。③給与カーブ見直しは、50歳台後半の大幅賃金引下げにとどまらず、さらに若い世代への引き下げという影響もありうる。

## これ以上の

「賃金水準の引き下げ」

「地域間の格差の拡大」を

あなたは

許すことができますか?

## 北見市議会議員選挙

告示 3月16日(日)  
投開票 3月23日(日)

組織内推薦 候補予定者

川島 あきのり (新人)

すみた 一男 (現職)

自治労北海道網走地方本部は、第1回執行委員会において「すみた一男」「川島あきのり」を推薦決定しています。